

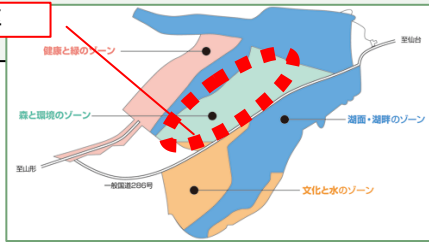
「里山地区」とは？

みちのく公園「里山地区」は、公園区域中央、釜房湖に突き出した部分にある雑木林とスギ・ヒノキなどの植林地で構成された里山です。

「人と自然のふれあい」をメインテーマとして、平成26年春の開園を目指しています。これまで、ツリーハウスづくり、樹林地管理や観察会など、さまざまな活動を行ってきました。

今年度は、開園を目指して、「里山遊び塾」・「里山育て塾」・「里山発見塾」の3つの活動を行っていきます。

里山地区



平成 25 年度は、6月29日に新年度ガイダンスを行い、7月からは正式にスタートしました。今後は、「里山遊び塾」を月2回、「里山育て塾」・「里山発見塾」をそれぞれ月1回のペースで、毎週活動を行っています。

里山育て塾 9月7日（土）曇り時々小雨



●第1回会員活動

9月からは親子を対象として、里山体験をする全7回の会員活動「森の楽校」が始まりました。会員活動では、ボランティアが、活動の準備、進行、指導などを行います。

今回はその第1回。里山育て塾のメンバーを中心に、「木こり体験をしよう」をテーマに伐倒体験や丸太切り、スギの皮むきなどの体験を行います。

当番となったボランティアの司会進行で朝礼を行い、活動場所へ移動です。

木こり体験の指導は、経験豊富なボランティアリーダーが行いました。道具の使い方、スギの伐倒の方法などを説明し、木こり体験開始です。

あらかじめマーキングしておいたスギを交代しながら倒しました。



午後は、伐倒したスギの皮抜き、丸太切りを体験してもらいました。日ごろできない体験に子供たちは夢中になって作業をしていました。



ツリーハウスは子供たちに大人気で、ボランティアがサポートしてセカンドデッキに登ってもらいました。



花の奥の突起を押すとシーソーのように雄しべが現れます。(キバナアキギリ)

里山発見塾では、自然を細かく見ることで、自然を読む糸口を発見し、そこから全体像を読み解く自然観察の方法とポイントを学びました。

午前中は、ツリーハウスまで歩きながら、見つけた植物をいつもより細かく観察し、どんな特徴があるのか発表しました。キバナアキギリは、マルハナバチが花にもぐり込むと、うまい具合に2本の雄しべが下がってきて花粉をなすりつけます。この仕組みがどのようなになっているのかみんなで考えました。

午後は、3班に分かれ、皆伐更新を行った場所の1㎡の調査枠内の植物をスケッチし、昨年や皆伐更新前との違いを観察しました。

皆伐更新をした場所は、シラヤマギク等の高茎の野草が多く開花していたり、明るくなった場所にササが密生したことで、スミレ等の低く咲く野草は陰になってしまっていました。皆伐更新による環境変化が全ての種にいいことではなく、喜ぶ種と困る種があることを学びました。



予想の倍の種類の発見にびっくり！！

●第2回会員活動

第2回の会員活動は、里山遊び塾のメンバーによる「木の遊び道具を作ってみよう」です。ツリーハウスの周辺に隠れ家を作り、午後には、その隠れ家のシンボルとなる木のオブジェを作ることにしました。

参加した会員は3班に分かれてもらい、各班2名のボランティアがサポートにつくこととしました。ボランティアはそれぞれの班の作業をリードしながら、隠れ家づくりの補助を行います。



昼食後には、ボランティアが用意したターザンロープやブランコで子供たちが遊ぶ時間を設けました。安全のため、時間を区切ってボランティアが補助についた時のみの利用でしたが、列を作って何度も遊んでいました。



作業の進め方は、三班三様。床から作り始める班があれば、細い丸太を組合せ囲いから作る班もあり、各班こだわりの隠れ家が姿を現し始めました。

今回の活動では、完成までは至りませんでしたが、これからどんな隠れ家ができあがるのか楽しみです。



ひとしきり遊んだ後は、ツリーハウスの周りで集めた材料を使い、オブジェづくりです。ボランティアリーダーが作った見本を参考に作業を始めましたが、子供たちの柔軟な発想で、個性豊かなオブジェができました。